

# 未来都市創造に関する特別委員会 市民報告会 記録

日 時：令和5年3月24日（金）午前10時0分～午前11時38分

場 所：市会本会議場

出席者：未来都市創造に関する特別委員会委員

委員長 山本のりかず

副委員長 しらくに高太郎

理 事 吉田謙治 住本かずのり 味口としゆき かし幸夫 香川真二

委 員 辻康裕 岡村正之 諫山大介 朝倉えつ子 平野達司 徳山敏子

山口由美 菅野吉記

## 議 事

(午前10時0分開会)

○理事 (かじ幸夫) 皆さん、おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまから神戸市会未来都市創造に関する特別委員会市民報告会を開催いたします。

私は、本日、司会進行を務めます、本委員会理事のかじ幸夫でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日はようこそお越しいただきまして、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

まず、開会に先立ちまして、御来場の皆様をお願いがございます。

本日の会議中は、報道機関、そして、市会事務局を除いて写真撮影、ビデオ撮りはできませんので、御注意ください。

なお、本報告会の模様はインターネットで配信されますので、御留意ください。

携帯電話は電源をお切りになるかマナーモードに設定をお願いいたします。また、会場内での飲食及び喫煙は禁止です。皆様のお席の前にある黒い名立てがあると思うんですが、そちらには手を触れないようお願いいたします。

最後に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手などの消毒に御協力をお願いいたします。入り口のほうに消毒は用意させていただいております。

本日は、議場での開催ということで、議場に初めてお越しになった方もいらっしゃると思いますので、私のほうから簡単に説明をさせていただきます。

まず、皆様が座っておられる席、これは、ふだん私たち議員が座る席となっております。

そして、皆様から向かって左側、こちらはふだん、市長、副市長、局長が座る席で、向かって右側、私がしゃべっているこちら側が、ふだん、教育長、また、選挙管理委員長などが座る席となっております。

本日は、それぞれ最前列に、未来都市創造に関する特別委員会の正副委員長、理事をはじめ15名の委員が着席しております。

それでは、本日のスケジュールを説明いたします。

まず、委員会活動報告として、令和4年度の未来都市創造に関する特別委員会の活動や、市長への提言内容などについて御説明した後、質疑応答の時間を設け、御来場の皆様から、まずは事前に頂いた御質問を中心にお答えさせていただきます。終了予定時刻は11時半頃を予定しております。御協力をよろしくお願いいたします。

それでは初めに、未来都市創造に関する特別委員会の山本のりかず委員長より御挨拶を申し上げます。

山本委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長 (山本のりかず) 皆さん、おはようございます。

本日は平日にもかかわらず、お忙しい中、議場、市民報告会にお越しいただきましてありがとうございます。未来都市創造に関する特別委員会の委員長を拝命しております山本のりかずです。

この場所に参加されている皆さんは、神戸のまちづくりについて、非常に御興味があり、課題意識をお持ちの方々であると、恐縮ですが、私自身感じております。これから、当該委員会の活動や提言内容を説明するとともに、皆さんからの御意見などを、正副委員長、理事、委員各位と

ともに真摯にお聞きしたいと思います。本日は何とぞよろしくお願ひいたします。

○理事（かじ幸夫） 委員長、ありがとうございました。

それでは、委員会活動報告に入らせていただきます。

未来都市創造に関する特別委員会では、新たな時代の神戸のまちづくりはどうあるべきかについて、専門的知見などを活用しながら、独自に調査、議論を行い、毎年様々なテーマで市長に政策提言を行っております。

令和4年度の委員会活動について、未来都市創造に関する特別委員会のしらくに高太郎副委員長から御説明いたします。

しらくに副委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○副委員長（しらくに高太郎） 副委員長を拝命しております、しらくに高太郎でございます。私のほうから、簡単にこの1年間の未来都市創造に関する特別委員会の活動報告をさせていただきますと思います。

先ほど、司会のかじ理事からもお話がありましたように、この市会、議会のほうから市長側に政策提案をやっていこうという、そういう試みが平成26年から、この議会の中で始まったという、その中の1つの特別委員会になるということでございます。

前にスクリーンを出していただいておりますので、御覧いただければと思います。

先ほど申し上げたところが一番上の項目でございます。今年のこの令和4年度につきましては、ここに書いてありますように、市内に数多く残る史跡や伝統文化等の歴史的資源を活かしたまちづくりということで——歴史ということで、1つのテーマに絞りまして政策提言ができたということで、今年の1年の委員会の活動をさせていただいたということでございます。

次、お願ひいたします。

まず、8月19日だったんですけども、市内視察を委員会でいまして、市内4か所行かせていただきました。これにつきましては、園田学園女子大学名誉教授の田辺真人先生に御同行いただきまして、北区の下谷上農村歌舞伎舞台というところにまず行かせていただきまして、これ国の重要有形民俗文化財ということで指定されておるということで、江戸時代から残る非常に貴重な農村文化の遺産になっておるということで、現地で御説明も、私たちもお受けさせていただきました。

それから、2か所目は湊川——その前にまず西国街道を通りながら湊川神社に参りました。この西国街道が、御承知のとおり、京都から九州の太宰府までの昔の中央の幹線であったということで、一部もちろん神戸の中にも——ここが通ってたんですよということで、バスに乗りまして、実際のこの西国街道を通りながら湊川神社に参りまして、この湊川神社には、境内に楠木正成の史跡や、あるいは、正成さんの墓石を建立させた水戸光圀公の像などがありまして、そこでまた御説明を受けて帰ってまいりました。

それから、4か所目としましては、最後にこの花隈城の跡——皆さんもよく御存じやと思いませんけれども、そちらのほうで、現地で田辺先生から、花隈城の歴史につきまして御説明を受けました。先生によりますと、花隈城も、あそこの石垣が残っている場所は——本当の本丸はもう少し西側にあって、今、一部分だけがあそこに残っておりましてということで、位置が推定されるという状況であって、あまり花隈城が生かされていないというのを——本当に僅か数年で落城してしまったと、そういった経緯も御説明を受けさせていただいたところでございます。

次、お願ひいたします。

続きまして、12月に、私たち委員会のほうで、委員会の出張ということで、行政調査に行かせていただきました。

1か所目が、広島へ参りまして、広島電鉄本社に参りまして、歴史を生かしたまちづくりということで、もう広島は御承知のとおり、原爆の被爆の都市ということで、様々な被爆の実際の体験の話や遺跡がたくさんあるという中で、広島電鉄さんが——まずは神戸の市電が広島電鉄に生かされておりまして、そして、あの写真のとおり、手前の582のほうが広島電鉄で、651が——すみません、失礼しました。651と書いてあるほうが、実際の被爆の電車なんです、広島電鉄の。手前の582のほうが神戸の市電でございまして、この被爆電車の運行プロジェクトということで、やっぱり平和について考えてもらいたいということで、実際に被爆した電車、このように展示をされておりまして、大切に使って、神戸の市電も使っていていただいと、こういうことと、あと、観光という観点から、スマホでチケットを、その中で買って、そして、移動ができるという、こういうモビリティのサービスもしておりますよということと、それから、まちのガイドアプリ *ekinote* ということで、これ三菱電機さんがすごくアプリを開発されておりまして、例えば、広島駅ということでありましたら、周辺にこんなお店がある、こんなところがありますと、そういう情報を集めたアプリも使っているんですと、そういう御説明で、視察をさせていただいたということとでございます。

次、お願いいたします。

まちなか西国街道推進協議会ということで、広島には、先ほど8月に私たちが田辺先生と視察させていただいたこの西国街道を、市民団体として、見えない西国街道を見える化しようということで、商店街の方とかを中心に、この推進協議会を実際に立ち上げておられるということで、実際にそこの事務局へ参りまして、実際の取組についてお話を聞かせていただきました。こういったステッカーを作ったり、あるいは、キーホルダー、このようなものも作って、西国街道のアピールを、広島ではしておられて、とにかくこの街道の可視化をしようということで取り組んでいらっしゃるということでございました。

次、お願いいたします。

それから、翌日に神戸に帰ってまいりまして、その足で今度は丹波篠山市に参りました。この丹波篠山市では、株式会社NOTEさんという会社が、本社がそこにありまして、御覧のとおり、私たちが立っております前の、そこの古民家なんですけれども、この古民家を改装しまして、宿泊施設にしているという、そういった事業を——旅館といいますか、ホテルといいますか、事業をされておられるところを実際に行かせていただきまして、この歴史的建築物を活用したまちづくり、また、観光施策を実際に行っておられるということで、御説明と、そして視察をして、帰らせていただいたところでございます。

その上で、帰ってまいりましてから、12月19日、それから、1月16日、そして、1月31日と3回にわたりまして委員会を開催しまして、私たち委員の中で討議をさせていただいて、また、その前には、視察をした後に、もう1回、この田辺先生に11月に議会へ、ここへお越しいただきまして、視察の結果も含めて様々な御提案、また、委員の先生方からもたくさんの御意見——意見交換をした上で、このたび、「歴史的資源を活かしたまちづくり」ということで提言書を2月に、委員会から久元市長のほうに提言をお渡しさせていただいたと。市長のほうからも、しっかりと生かしてまいりたいと、こういう旨の御答弁なり発言がございました。

簡単でございますけれども、委員会の活動報告とさせていただきます。

○理事（かじ幸夫）　しらくに副委員長、ありがとうございました。

今、御紹介もありましたように、次には、去る2月8日に、久元市長に提出いたしました提言書「歴史的資源を活かしたまちづくり」について、山本委員長より御説明申し上げます。

委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（山本のりかず）　皆さんにお配りした3枚目の資料があるかと存じますけども、前のスクリーンでもお示ししますので、どちらを見ていただいても構いません。今から御説明させていただきたいと思えます。

「歴史的資源を活かしたまちづくり」の提言書ということで、具体的には、神戸市内には、過去の時代の史跡や伝統文化が非常に多く残っており、歴史的資源が豊富にございます。その資源の価値を、神戸市民の皆さんに認知されていないものが多くあると感じており、今回、歴史的資源に着目して、委員会として1年間の活動を通じて意見、提言書をまとめ、市当局に提言した次第でございます。

先ほど、しらくに副委員長からもありましたとおり、下谷上農村歌舞伎舞台——北区にあるんですけども——そして、中央区に、皆さん御存じの花隈城跡を実地視察、この委員会のメンバーで実地視察させていただきました。

次のページ、お願いいたします。

産学官民の連携による協議会の創設ということで、行政だけではなくて、ここにいらっしゃる皆さん、市民、事業者、専門家が主体的に活動している事例がございます。具体的には、広島市のまちなか西国街道推進協議会——私たち委員会としても、先ほど御説明したように視察させていただきました。行政と市民、そして、民間の方々が連携して、この西国街道のステッカーであったり、マンホール、サインボードなどを製作してございます。そして、子供たちにも出前授業など、多くの活動をされておりました。私どもの委員会としては、仮称ですが、神戸歴史資源活用協議会の創設を、市長をはじめ幹部の皆さんに提言した次第でございます。

次、お願いします。

協議テーマ例として、①に掲げていますけども、歴史的資源の活用戦略ということで、皆さん御存じかもしれませんが、近世までの日本らしいものと近代以降のモダンなものが混在する神戸において、今、進んでいますデジタルサイネージやYouTubeなどの動画配信、加えて、ARやVRの活用まで、多様な発信方法、そして、活用方法を取り入れるべきだということを、この提言書に記載しまして、市当局の皆さんに提言した次第でございます。

次に、②西国街道を活用したまちづくりということで、神戸市内には、かつて西国街道が通っていましたが、街道らしい町並みが残っていない、見えない街道となっています。市民の皆さんや観光客に認知していただくためにも、要は街道の可視化に取り組むことと、関心を持っている地域住民の皆さん、そして、若い学生の皆さん、歴史愛好家の皆さんとともに、一緒になって検討する場を設けることも提言した次第です。

次、お願いします。

先ほど、しらくに副委員長から御紹介もありましたとおり、戦災等に関する歴史の継承ということも非常に大切です。明治43年に開業し、東洋一と慕われていた神戸市電が、広島市内で今も現役として走行しております。また、広島電鉄では、被爆した電車が今でも走行しており、そのような神戸市電の歴史や被爆体験を次の若い世代に伝えていく、そして、継承していくことも非常に大切と考えますので、当局の皆さんに対して、発信方法を工夫していただきたいことも、こ

の提言書でまとめ、提案させていただいております。

次、お願いします。

次に、大河ドラマなどを契機とした歴史的資源の活用、そして、⑤歴史的建築物の活用ということに関して、大河ドラマや朝ドラなどを効果的に活用した観光戦略を促すとともに、神戸市内には歴史的建築物も多くございます。そういった歴史的建築物を保存・活用し、持続可能なまちづくりを支援する仕組みを強化していくことを、当該委員会で提言した次第です。

次に、デジタルアーカイブ、(仮称)神戸歴史図書館の開設に関して、神戸市内の歴史的資源などが、各ウェブサイトで発信されていますが、情報が一元化されていないということも課題でございます。情報を一元化し、(仮称)神戸歴史図書館を(仮称)神戸市歴史公文書館上に開設していただきたいことを伝えるとともに、未来に向けた課題、地域の課題解決にもつながる発信方法を工夫していただくことも提言させていただいた次第です。

最後になりますけれども、その他の収録テーマ例として、①鉄道遺産(神戸市電)、②鉄道遺産と書いていますけれども、実は皆さん、2024年には、神戸ー大阪間の鉄道開通150周年に当たります。過去の歴史を踏まえて、市電や鉄道遺産などをアピールして、市民の皆さん、そして、県外の皆さん、そして、世界の皆さんに発信することを、IT技術、DX化、つまりデジタルアーカイブで発信することを提言した次第です。

③土木遺産についてでございます。布引五本松堰堤や湊川隧道は、明治時代の土木遺産であり、神戸市民の皆さんに魅力を伝え、これも同じく先ほど御説明したとおり、デジタルアーカイブで国内外に発信すべきことを提言した次第です。

我々当該委員会は、先ほどかじ理事からも御説明がありましたように、2月8日に、市長、そして、市幹部の皆さんに提言書をお渡しし、そのときの市長のコメントをここに掲載させていただいております。皆さんも読んでいただいたら、熟読していただければ分かると思いますけれども、何例かちょっと申し上げたいと思います。

神戸は、空襲や震災で多くの歴史遺産が焼失したので、他都市以上に歴史的資源を大事にしていかなければならない、そういった市長のコメントもございました。

また、神戸市電は、戦前、東洋一の市電とうたわれた。現在は広島で活用してもらっているが、神戸市内で保存されている市電もぜひ活用していきたい。神戸駅前にあるSL、D51をライトアップしたところ、かなり見違えたと、今後もうこうしたことをやっていきたいという発言も、コメントとして市長から頂きました。

西国街道や花隈城は、当初と比べてかなりたたずまいが変わっているので、どんな形がいいのか考えている。西国街道については、まず、道しるべというか、道標のようなものに力を入れることから始めたい。花隈城については、まだ具体的な案がないが、よく考えてみたい。

最後に、市長の言葉としては、頂いた提言の実現に向けて、しっかり検討していきたいという、非常に前向きな答弁というかコメントを頂きましたので、我々委員会としても1年間の活動を通じて、しっかりと市幹部の皆さん、そして、市長の皆さんに提言させていただいた次第です。

そして、本日、今から、お集まりいただいた皆さんからも、先ほど冒頭で申し上げましたとおり、貴重な御意見を賜りながら、理事の皆さん、そして、委員の皆さん、しっかりと真摯に意見をお聞きますので、その頂いた意見を、しっかりと今後の神戸の未来の発展のために、そして、次世代の子供たちのために継承していけるように取り組んでまいりたいと思いますので、お昼前までの1時間半ぐらい、何とぞよろしく願いいたします。

○理事（かじ幸夫） 山本委員長、ありがとうございます。

ただいま、山本委員長、しらくに副委員長から御説明させていただきましたように、未来都市創造に関する特別委員会では、この1年間、幅広い観点から調査、議論を行ってまいりました。議論においては、できる限り多様な意見を認め合い、会派間の意見の違いを超えて、提言書として取りまとめてきました。

そこで、これからは各委員から皆様方に、提言に対する思いを一言ずつ発言させていただきまします。時間の関係で委員1人当たり2分という短い時間ではありますが、委員の皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。10秒前には音を鳴らしますので、おまとめください。

では、まず、吉田謙治理事、お願ひいたします。

○理事（吉田謙治） 皆さん、どうも今日はお越しいたきまして、大変ありがとうございます。

2分という時間ですので、簡単に申し上げたいと思ひますけれども、後ほど御質問にお答えする中でも申し上げますけれども、なぜ私たちが歴史のことを取り上げたかということでありまけれども、歴史愛好家は、やはりノスタルジーがという部分もあるかと思ひますけれども、私たちの未来に向かってのよりよい生活を実現していくために、過去にあったいろんな英知であるとか、経験であるとか、そういうものを、もう1度改めて掘り起こして役立てていきたいという思ひが大変強かったからであります。後ほどまた申し上げますけれども、いろんな建築物とか土木の紹介ありましたが、その背景に、建築技術と土木技術、あるいは、神戸の場合ですといろんな生産技術があります。こういうものがだんだん時とともに——過去の栄光と言つては失礼かも知れませんが——忘れ去られていく、使われなくなつてしまふ。こういったこともきちんとやっぱり継承していく必要があるんじゃないかというふうに考へております。

そしてまた、神戸の場合は外国文化の流入というのが1つ大きな特徴でありますので、それによつて影響された、先ほどの建築技術もそうですけど、異人館1つ取りましても、世界に類例のない異人館でありますし、食文化の変遷というものも、その大きな影響を受けております。こういったことを、もう1度改めて——後ほど申し上げますデジタルアーカイブの中で具体的な目標・目的を明確にした上で、役立つようなアーカイブをつくつていきたいというのが、私の今回のいろいろ検討課題の一番のメインのお話でございます。

○理事（かじ幸夫） 吉田理事、ありがとうございます。

次に、住本かずのり理事、よろしくお願ひいたします。

○理事（住本かずのり） 未来都市創造に関する特別委員会の理事を務めさせていただいておりまします、住本かずのりでございます。

今年の本委員会では、歴史的資源を活かしたまちづくりの観点から、様々な調査、議論を行つたわけですが、三宮整備事業の事業期間はおおむね30年間の計画で、段階的にまちの整備を行う計画になっております。30年後には、また新たな歴史が刻まれるわけですが、これまで神戸という地では、歴史上では時代の転換期には、神戸という地名が度々出てくるなど、日本の重要な基点ともなつている場所だと考へております。私たちはその地に生活をしているわけですが、また、神戸という地は、先ほど市長のコメントにもありましたように、水害や地震の自然災害や、戦時中の空襲などで度々まちが壊滅してあります。そのたびに新しいまちが書きさされていふため、どうしても歴史的遺産や史跡が過去に埋もれてしまつてあります。その中では、神社仏閣は残つてはいますが、既に残つていないもの、例えば、先ほど紹介いたしました西国街道や神戸市電など、道標や展示はあるのですが、ふだん意識されることなく、忘れられつつあるの

もあります。新しいまちづくりにおいては、歴史の史跡をしっかりと残しつつ、観光資源として、シビックプライドとして、価値を未来に共有していく必要があると考えております。また、最新のデジタル技術を活用した、都市の未来と過去との融合も必要だと考えます。

そういったことを踏まえて、本日、市民の皆様方に活動報告をさせていただきました。本日はどうもありがとうございます。

○理事（かじ幸夫） 住本理事、ありがとうございました。

次に、味口としゆき理事、よろしくお願いします。

○理事（味口としゆき） 本日はお越しいただきましてありがとうございます。理事を務めてます、味口としゆきでございます。

今回の提言書の5ページでは、戦災等に関する歴史の継承が明記されています。本委員会では、委員長から報告がありましたように、広島を視察し、広島電鉄で被爆した市電を見せてもらいました。この被爆市電と神戸市電が並んでいる姿には、本当に考えさせられるものがありました。

神戸市は、非核神戸方式を持つまち、平和のまちです。広島では、継承と発信をテーマに子供たちへの平和教育を行っていると聞きました。神戸も3度の空襲で多くの市民が戦争の犠牲になりました。非核神戸方式を持つ都市として、核兵器の残虐さも合わせて、広島と同じように継承、発信していくことが重要だと考えます。

ロシアによるウクライナへの侵略は、1年を超えて続き、多くの市民が犠牲になり、改めて戦争の悲惨さが浮き彫りになっています。国の政治でも、軍事費、防衛費への拡大により、きな臭い状況となっていると言わなければなりません。こうしたときに、神戸市の果たす役割は非常に大きいと思います。

提言書がお示ししました、歴史を風化させることなく次世代の子供たちが平和の尊さについて学べる様々な取組に前進させていくことが必要な立場で、反戦、平和の思いを継承、発信していくべきだと考えます。

以上でございます。

○理事（かじ幸夫） 味口理事、ありがとうございました。

次に、香川真二理事、よろしくお願いします。

○理事（香川真二） 皆様、本日はお越しいただき、ありがとうございます。香川です。少し個人的な話をさせていただきたいと思います。

1986年、皆さん、頭の中でイメージしていただけたらと思うんですが、阪神タイガース日本一の翌年なんですけど、私、広島に住んで、当時小学校5年生だった私は、家族旅行で神戸に来させていただきまして、連れてってもらったのが北野でした。もう本当に5年生の私は興奮して、たくさんお土産買ったのを覚えてるんですけど、そのこともあって、私、就職も神戸を選びまして、神戸に就職して、結婚式も北野で挙げました。昨年、テレビの放送で、北野の異人館の老朽化がかなり進んでるというニュースを見まして、本当に何かこう自分の思い出がどんどん老朽化していくような、そんな思いがありました。

今回、この未来都市創造に関する特別委員会に参加させていただきまして、提言書の6ページにもあるんですが、ぜひとも歴史的建造物を活用していただきたい。民間活用していただいて、活用することによって保存していただきたい。私の思い出にある北野をもう1回復活させたいというふうな思いで、今回の委員会では発言させていただきました。

以上です。ありがとうございました。

○理事（かじ幸夫） 香川理事、ありがとうございました。

次に、辻 康裕委員、よろしくお願いいたします。

○委員（辻 康裕） 皆さん、本日はお越しいただきまして、ありがとうございます。辻 康裕でございます。この委員会を通じて、私が実感したことがあります。歴史的資源は宝であるということでございます。この宝を掘り起こすことによって、どういった効果が得られるのか、皆さんのシビックプライドを醸成、そしてまた向上することができる、また、新たな気づきを得られる、そしてまた、地域のさらなる愛着が湧くということです。

私、いつも登ってる山に、保久良山という神社があるんですけども、その保久良山の保久良神社に、椎根津彦命という亀に乗ったおじいさんの像があります。この椎根津彦命なんですけどね、古事記に出てくるお話なんですけど、神武天皇が東征の折に、潮の流れが厳しくて、行く手を阻まれたときに、亀に乗って現れて、道を導いたと、海路を案内したという故事がありまして、そして、保久良神社でお祭りされています。このお話を聞いて、そして、私それを見て思ったのは、ここの神社は道開きの神様なんだなということちょっと思ったんです。何も雑誌に書かれてるいろんなことで有名な道開きの神様だけじゃなくて、地元にもこういったところがあるんだなと。そして、その神社には、もう1つ言い伝えがあります。灘の一つ灯というものがありまして、海上を、その当時、夜暗くなると、海なのか、山なのか、浅瀬なのか分からなくなると、地元の人々が毎日毎夜、かがり火をたいて、ここが六甲山ですよ、ここからは入ってはいけませんよということを案内したと。これもまた道開き、道案内であると、その椎根津彦命の伝承によって、地元で生きてると、そういった文化が根づいてるんだということありまして、ぜひ皆さんもそういったお話を、ぜひここに集めていただいて、素晴らしいものにしていただきたいと思っております。

長くなりましたが、失礼いたします。

○理事（かじ幸夫） 辻委員、ありがとうございました。

次に、岡村正之委員、よろしくお願いいたします。

○委員（岡村正之） 皆様、こんにちは。岡村正之でございます。本日は御来場いただきまして誠にありがとうございます。私のほうから——今日、皆様、御興味があり、こちらのほうに御来場していただいていると思います——私のほうからお話しさせていただくのが、有馬街道という歴史的な街道がありまして、その交差点の名前が、二軒茶屋でしたら、昔、2軒しかお茶屋さんいなかったよとか、水呑という交差点がございます。そこで水が飲める、くめる場所が、ここが最後の水飲み場だったよというような、歴史的背景から交差点の名前がついている箇所があります。このことを市民の方に興味を持っていただくためには、今日お集まりいただいた方々に、この情報を持って帰っていただいて、御興味のない方にも、毎日使っている生活道路でございますので、そこから情報を取っていただいて、ぜひ御興味を湧かせていただけたらなと思います。

私、岡村からは以上です。

○理事（かじ幸夫） 岡村委員、ありがとうございました。

次に、諫山大介委員、よろしくお願いいたします。

○委員（諫山大介） 本日はお忙しい中、お時間をつくって御参加いただき、ありがとうございます。諫山です。

今まで未来都市にも何回か委員として参加してるんですけども、三宮都心部再開発、それに関するまちづくりがテーマで、自動運転や空飛ぶ車、ドローンが実装されるであろう近未来を考

えた調査等があったんですけども、今回は、今日報告がありましたようにエリアを旧市街地や農村部まで広げて、歴史的資源を活かしたまちづくりに着目した勉強会、検証を重ねてきました。改めて、区が違えば、本当に知らないことだらけだなという印象を持っております。潜在的に魅力ある歴史遺産に分かりやすい時間軸や説明を加えまして、市民、観光客にどうパッケージとして発信するかという目的だったと思います。

地元灘区には、摩耶山中腹に、戦前の1930年に建てられました——その後、観光ホテルとして、最後は学生センターとして営業して、今、廃墟となっているんですが、旧摩耶観光ホテルというのがあります。これは本当に廃墟なんですけども、2021年に、異例の国の登録有形文化財に登録されました。これは、摩耶山・マヤ遺跡ガイドウォークの市民団体が日頃から活用して、支えていこうとした結果であり、極端な例なんですけども、発信次第で魅力的な観光資源になるという例だと思います。

今回、産学官民の連携による協議会の創設と提言にありますけども、この議会や行政の押しつけではなく、継続的かつ発展的な取組になるよう、あくまでも地元の市民が主体となる活動になるのが基本であると、私は思っておりますので、こういった提言が、これから神戸の未来のために生かされることを祈りながら、今日、最後の報告会に臨ませていただきました。

私からは終わらせていただきます。ありがとうございました。

○理事（かじ幸夫） 諫山委員、ありがとうございました。

次に、朝倉えつ子委員、よろしくお願ひいたします。

○委員（朝倉えつ子） 北区選出の朝倉えつ子です。今日は本当にありがとうございます。

先ほどの報告の中でもありましたけれども、今回、視察で北区の下谷上農村歌舞伎舞台を視察させていただきました。この地域、戦前から本当に活発に農村歌舞伎が上演されていたということで、地域の皆さんが暮らしの中に根づいたこういう文化芸能が継承されるということが本当に大事だというふうに思っています。北区のこうした伝統文化を継承する、国としても重要文化財として位置づけられていますけど、これを保全して、発信をしていくことが、地域全体の活性化にもつながるといことが、今回、この提言でも示されています。北区だけじゃなく西区も含めて農村地域がありますけれども、市街地に限らず、それぞれのやっぱり地域のまちづくり、そこに住んでる人たちの暮らしや、そして、その声で、住民主体で進んでいくというまちづくりが、地域全体の活性化にもつながっていくと思いますし、また、それがひいては、神戸を訪れる人にとっても本当に魅力ある神戸のまちというふうに映っていくというふうに考えています。

そして、もう1つ、やはり広島での視察で、私も被爆電車と、そして、旧神戸市電、これ並んでる写真が、今日も提言の中で示されていますけれども、今回の提言においても、広島は常日頃から平和教育をずっと続けておられる、盛んにされてるといいうまちですけれども、被爆体験や平和への思いを後世に、次世代の子供たちに伝えていく、語り部の継承にも取り組んでいるということです。

それで、神戸のまちにも次世代の子供たちに平和の尊さや、それについて学ぶ取組を前進させていく必要性についてということで提言にも盛り込まれています。非核神戸方式を持つ神戸のまちから、核などを使ったそんな戦争は絶対させないと、平和の思いを発信していくことが、本当に神戸のまちとしても、役割としても求められているというふうに思っています。

今日は皆さんの御意見もいろいろお聞きしたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

○理事（かじ幸夫） 朝倉委員、ありがとうございました。

次に、平野達司委員、よろしくお願いいたします。

○委員（平野達司） 平野達司でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、兵庫区なんですけども——その前に、私、今回の委員会で提言させていただいたのは、歴史遺産が今、点になってるのではないかなというふうに思っています、神戸市内で。それをもっと面でPRすべきではないかということで提言させていただきました。その中で、先ほどお話しした、私は兵庫区なんですけども、兵庫区には、例えば、三大土木の鳥原の貯水池であったり、提言書でもありました湊川隧道、それから、兵庫運河であったり、また、ほかにも歴史遺産として、西国街道の札幌の辻の跡とか、それから、兵庫大仏であったり、兵庫城の跡の石垣であったり、様々ございます。

そして、今回、兵庫津ミュージアムができたんですけども、まだまだ地域の皆様は、それぞれ一生懸命活動されて、PRをしてよというふうにされてますけども、やっぱり先ほどのお話もありましたとおり、隣の区がどういうふうに活動されてるかというのは、やっぱりちょっとなかなか分かりづらいところもあるのかなというふうに思ってます。地域の皆さんもいろいろ活動されて、例えば、これ1つ、湊川隧道なんですけども、神戸ノートとコラボして、限定1,000冊で用意されて、PRをされたり、様々活動されたりしてます。

今回、そのように感じたのは、先ほどのお話であった広島市の視察が1つの、私も、原点になってるんですけども、もともと広島は西国街道は、広島城の北側に走っておりまして、広島城ができたことによって南側に西国街道を移したというふうに聞いてます。その移したことによって、そこにまちができ、人が集まり、そして、今の広島市の原点があるということを知りました。ただ、皆様御存じのとおり、原爆が投下されてしまったので、そこを全て焼失してしまいました。それを産官学民、皆様が広島市を盛り上げようということで、今、西国街道からまちおこしをしようというふうにされておられまして、特に企業さんが手を挙げられてるとするのはすばらしいなというふうに思ってます。ですから、神戸も、今それぞれの区、点でそれぞれ活動をされてますけども、やっぱり企業も含めて産官学民で面的に神戸の歴史遺産をもっとPRして、活用すべきじゃないかなと、そういうことで提言をさせていただきました。

ありがとうございます。以上でございます。

○理事（かじ幸夫） 平野委員、ありがとうございました。

次に、徳山敏子委員、よろしくお願いいたします。

○委員（徳山敏子） 皆様、本日はお忙しいところありがとうございました。私も北区の選出でございます。

今、神戸は——この歴史の勉強をさせていただいてるんですけども——2030年の神戸空港国際化など、それからまた、三宮の再整備、また、各区の駅まち空間ということで、きれいにまちの中がバリアフリーになったりいろいろしてるんですけども、その中で、このように歴史を学んでいくというのは、私も30年以上前に関東のほうからこちらのほうに引っ越してきたんですけども、そのときには、子供が学校に行ったりすると、遠足とかで私もこの下谷上の農村歌舞伎舞台とか見させていただいたんですけども、どんどん子供の成長とともに大事な歴史的な遺産などが隠れてしまって、未来へ未来へという、そういう思考になってしまいますので、しっかりこの際、自分のところにあります歴史遺産を守りながら、また、かやぶき屋根の体験、そういうのもしっかり地元でしておりますので、そういうところも推進しながら、未来に向かってまた頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞこれからも御支援のほどよろしくお願いいたします。本

日はありがとうございました。

○理事（かじ幸夫） 徳山委員、ありがとうございました。

次に、菅野吉記委員、よろしくお願いいたします。

○委員（菅野吉記） 皆さん、どうもこんにちは。本日は御参加いただきましてありがとうございました。菅野吉記でございます。

私のほうからは、先ほどの委員長の報告もありましたように、この市内におきまして、歴史的遺産というのが多くありますけども、本当にそれが埋没してしまって、皆様が知らない。身近なところではみんな知ってるようでも、当たり前のような存在のものが多く残っているということで、例えば、先ほど、私も兵庫区なんですけども、兵庫運河などは——実は小樽運河が有名なんですけど——総全長になると日本一なんです。割と身近なところの方は皆さん知らない。例えば、鶴越墓園にあります鶴越大仏、これも割と結構知られてなかったりとか、いろんな様々な歴史遺産が本当に埋没してしまって——あるときに実はNHKで、このたび4月3日から、朝の連続ドラマで「らんまん」というドラマが開始されますけども、牧野富太郎さんという日本一の植物学者がテーマで、このたびドラマが始まりますけども、高知が主題で始まるんですけども、実は神戸、私の住む兵庫区の会下山町というところは、もともと神戸で住んでた場所であって、なかなか皆それも知らなかったという方が多くあって、このたび割と神戸のほうでも牧野富太郎さんの話を、これからドラマが始まるということで、いろんなテーマで講演もしていただけるようなことも聞いておりますけども、やはりそういったことを1つ1つ見ていけば、神戸の中には本当に歴史遺産というか、そういった資源というか、また、観光にもつなげていけるようなことが多くあるんだなということをお話しさせていただいて、そういったものをしっかりと生かしながら前に進めていきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○理事（かじ幸夫） 菅野委員、ありがとうございました。

次に、山口由美委員、よろしくお願いいたします。

○委員（山口由美） すみません、座ったままで失礼いたします。私は、西区選出の山口由美と申します。本日は皆様、お越しいただきまして、ありがとうございます。

私は、歴史的資源にこれまであまりなじみがありませんでした。といいますのも、歴史的な建造物というのは、バリアフリーではなくて、私のような車椅子ユーザーでは、そもそも行けないところだと思い込んでいたからであります。今回、本委員会に所属いたしまして、神戸の歴史的資産を幾つか見る機会がありました。ほかの委員の先生方には御協力をいただいたところもあるんですけども、私のような立場でも触れることができるし、楽しむことができると知りました。そして、何げなくふだん見ている景色の中で、これまでの歴史を踏まえたものであったり、歴史にまつわるエピソードがあったりすることを知ると、シビックプライドをより強く感じたり、持てるようになったような気がしております。

また、今回の提言の中にありますデジタルアーカイブにつきましても、実際に現地を訪れることなく、時空を超えて見たり知ったりする機会にもなると思いますし、訪れることが難しい方など、多様な方が歴史的資源に触れることができるのではないかというふうに考えております。

以上です。

○理事（かじ幸夫） 山口委員、ありがとうございました。

最後に、私、かじ幸夫から発言させていただきます。

私、日頃、市内の公共交通がどうあるべきかいうことをよく考えてます。交通事業って単なる移動ではなくて、都市装置の一部であり、まちづくりの基盤であり、交通というのは、単純に本当に安全に移動したら終わりじゃなくて、神戸市のまちづくりの本当に基盤だなという観点で、本当に電車、バス、大切なものだなと思ってるんですが、今年度、未来都市のほうに着任し、皆さんと意見交換をする中で、このテーマに上がりました歴史的資源、これを生かしたまちづくり——僕はもうこのときに、一番に市電だと思って——1971年の3月13日廃線、私その3日後に、この神戸市に生まれました。本当に子供の頃から市電がいかにか神戸市民の毎日の生活を365日支えていたのかということ、父や祖父であったり、いろんな方から話を聞いてきた記憶があります。そういった意味で、では、今回のこの委員会の提言をまとめていく過程で、神戸市電をしっかりと市民の財産として、遺産として、もっともっと光を当てていきたいということを意見させていただきました。

京都市では、平安神宮にある市電本体が、国の重要文化財です。例えば、京都市電の設計図書であったり、路線図であったり、切符の一部は、京都市の有形文化財です。二番煎じがどうという議論は僕はしません、神戸市は今からでも、もう1度、この神戸市電を市民の皆さんで思い返して、そして、今の交通事業がどうなのか、これからの神戸の皆さんの移動というのをどう考えるのかという基点にしてほしいという思いも込めて、提言書作成に当たっては、いろいろ発言をさせていただいたなと思っております。

もう1つ、この委員会で伝えたのは、この取りまとめた提言が、今後どうなるのか、私たち議員もしっかりと追いかけていって、市当局をはじめ市民の皆さんと一緒にどうなっていくのかをチェックしないと駄目ですねということも言ったので、私もこの発言した限り、責任を持ってこれから市電がどうなるか、見ていきたいなと思っております。

以上です。ありがとうございます。

○理事（かじ幸夫） 以上で、未来都市創造に関する特別委員会の活動報告は終了させていただきます。

ここから、質疑応答に入ります。

本日御参加の皆様より、事前に7つ質問を頂いております。

まず最初に、私からそれを紹介し、その担当の議員からそれぞれお答えさせていただきます。

その後、時間が許す限り——およそ、冒頭言いました11時半頃を予定しておりますけれども——再質問であったり、新たな方からの御質問をお受けしたいなと思っております。よろしくお願いたします。

なお、先ほど申し上げましたように、この未来都市創造に関する特別委員会では、多様な意見を認め合って、会派間の意見の違いを超えて活動を1年行ってまいりました。そのため、各議員から回答させていただくんですが、その回答についても、委員会として一致した回答ではない部分もあるかもしれませんが、お含みいただければなというふうに思っております。

では、早速、まず初めに、東灘区、蔵原様から頂いた御意見です。

提言書の3ページ、皆さん、提言書を見ていただきながらお付き合いください。

産学官民の連携による協議会の創設に関連して、王子公園や相樂園などの公園には、古くから先人が大切に守り続けてきた樹木がある。史跡や建造物だけではなく、そうした樹木も大切に維持管理するまちづくりを進めてほしい、こういう御意見を頂きました。

こちらについては、山本委員長より回答させていただきます。

委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（山本のりかず） 蔵原様、御質問ありがとうございます。山本のりかずです。

蔵原様から頂いた御意見、私も非常に共感しております。先人たちが大切にされてきた古い樹木を守り、保全していくことは非常に大切だと、個人的に考えております。神戸市内には、公園の樹木だけではなく、例えば、六甲山や北区、西区には、里山などには、広葉樹などの樹木、木々が多くございます。このような広葉樹を守りつつ、適切な伐採であったりとか、資源循環型社会となるように活用していくことも一方で必要と考えております。自然豊かな神戸を次世代の子供たちに残しつつ、魅力あるまちにしていく必要があると考えます。

神戸市には、本当に他都市と比べて、大阪、京都と比較して、緑が多くございます。市民の皆さんの癒しになっているのも事実でございます。そういった樹木をしっかりと守りつつ、次の世代——そして、私たち市民の財産でもありますので、しっかりと先人たちが築いてきた樹木や緑を大切にしていきたいと思っておりますので、今日、御意見いただいたお考えは、私も含めて各議員が、議会にもこれまでもしっかりと伝えておりますので、また、今日お預かりした御意見、改めて非常に大切な御意見だと思っておりますので、しっかりと我々理事、委員、そして、私も含めて心に留めて、しっかりと対応していきたいと思っております。今日は貴重な御意見、ありがとうございます。

○理事（かじ幸夫） 山本委員長、ありがとうございました。

今の関連で、ほかの理事、委員の皆さんから、補足等々ございませぬか。よろしいですか。

（なし）

○理事（かじ幸夫） 今回の質問に対する回答は以上になります。

次に参ります。

中央区の西田さまから頂いた御提案です。

提言書の4ページ、歴史的資源の活用戦略に関連して、かつては市内の多くの場所から、山と海のまちを実感できたが、今では六甲山の稜線とポートタワーが見えなくなったという声をよく聞く。神戸らしい風景はまちの魅力であり、美しい景観も歴史的資源である。例えば、絶景ポイントの洗い出しと設定を行い、絶景や雰囲気や壊す建物や看板に規制を加えてみてはどうかという御提案です。

こちらにつきましては、住本理事から御回答させていただきます。

理事、よろしく願いします。

○理事（住本かずのり） 今回、御提案ありがとうございます。

御提案いただいたように、年々、高層マンションが市内に建設されており、景観が失われているというのは、私も感じております。本市においても、神戸市都市景観条例が制定されており、その中でも、重点地域や都市景観形成地域などが定められております。そこには高さ規制なども定められているわけですが、また、都市景観審議会の開催とともに、神戸らしい景観が損なわれないように取組もされています。また、「神戸らしい眺望景観50選、10選」が定められており、ビューポイントサインとして針穴のサインが設置されている。針の穴から風景をのぞき込むことで発見を楽しむとともに、神戸のまちの歴史とつながりが見えるような取組もされています。

しかしながら、御提案がありましたように、神戸の歴史と景観を重ね合わせ、未来都市を創造していくことを考えると、単なる絶景ポイントだけでなく、そこに歴史を重ね合わせる必要が生

じると考えております。今後は、この50選だけでなく、もし提言書の協議会が創設されれば、各規制までは難しいかもしれませんが、御意見いただいたような新たな歴史的な絶景ポイントの創設も視野に入れていく必要があると考えます。

御提案、どうもありがとうございました。

○理事（かじ幸夫） 住本理事、ありがとうございました。

この件についても、理事、委員の皆様から、何かございませんか。よろしいですか。

（なし）

○理事（かじ幸夫） では、次に参ります。

東灘区、蔵原様からもう1つ御意見を頂いております。

提言書の4ページ、歴史的資源の活用戦略にあります、地域住民向けに地元の魅力再発見につながる発信に関連して、寺や神社は、古くから高台に置かれ、地盤も強固であることなどから、東日本や熊本の震災でも、一時避難先として利用されたと聞く。全国で寺や神社と災害協定を締結する事例も増えている。災害時にも役立つ視点についても発信を協議してほしいという御意見です。

これにつきましては、しらくに副委員長から御回答させていただきます。

副委員長、よろしくお願ひします。

○副委員長（しらくに高太郎） 御意見、ありがとうございます。

このたび、歴史的資源を活かしたまちづくりということなんですけれども、確かにその災害の視点ということについては、よう触れることができなかつたんですけれども、おっしゃるとおりだなという気がいたしました。確かに高台に神社仏閣がありまして、私は垂水区在住なんですけれども、本当にそうです。

ちょっと神戸市に確認をいたしましたところ、一時的な避難所——地震があったとき、皆さんが避難されて、私もあのとき記憶しておりますけれども、基本的にはやっぱり公園なんかにはまず集まっておられた方がたくさんおられたなというふうに思いますけれども——神戸市自身が一時的な避難所ということに指定しているのは、大抵の場合が学校のグラウンド、それから、公園ということになっているということですので、ちなみに神社仏閣で一時的な緊急避難場所があるところがあるのだろうかということを確認しましたら、市内では1か所のみ、中央区に浄福寺さんというところを指定されているようでございます。それは、ちょっとこれ見えにくいんですけども、中央区の北側に、ここにお寺さんがありまして——これは中央区のこの辺りに住んでおられる北野町かいわいの方が、いざ非難するときにどうしたらいいんやという御意見が、やっぱり住民の皆さんの中からあって、このときに神戸市が対応を考えたときに、この辺に公共的施設、先ほどの学校とか公園というものがないところだということもあって、皆さんの声を区役所が取りまとめて、そして、区役所から浄福寺さんのほうに、お寺さんのほうに一時的緊急避難場所としてお願いさせていただきたいということで、今、区役所と連携ができているということのようでした。

ですから、やっぱり私たち住民側が——いざというときに防災マップが配られておりますけれども——近所の小学校、あるいは中学校、そこまでなかなか行けないと。例えば、ここにお寺がある、神社があるということでありましたら、私たちが実際に、住民自身が知恵を出し合って、その中であそこに避難所をお願いしようというような、まず自発的な、そういう自分自身の命を守るという行動の中で考えていくということがまず1つ要るかなということと、それから、もち

ろん行政のほうも、まずは公共的施設からというふうに考えるというところがありますので、このたびこういう歴史的資源を生かそうということも、私たちが提言をさせていただいたわけですから、神社仏閣で避難所としてお願いさせていただけるところがありましたら、また、神戸市を通じてお願いしていくというような視点も、私たち自身も持ちながら、提言していくことも非常に大事なことかなというふうなことを感じました。

簡単ですけども、お答えにさせていただきます。誠にありがとうございます。

○理事（かじ幸夫）　　しらくに副委員長、ありがとうございました。

この件について、理事、委員の皆さん、いかがですか。よろしいですか。

（なし）

○理事（かじ幸夫）　　では、次に参ります。

灘区の坂口様から頂いた御意見です。

提言書の6ページ、歴史的建築物の活用に関連して、かけ離れた過去の資源だけではなく、北野の異人館かいわい、王子動物園、王子公園など、近現代の歴史的資源についても極力、外観、景観を維持したまちづくりを検討いただきたい、こういう御意見を頂きました。

こちらについては、味口理事から回答させていただきます。よろしく申し上げます。

○理事（味口としゆき）　御質問、どうもありがとうございます。

この提言書では、歴史的建築物の活用について、神戸の歴史を守りたいとの市民の思いを踏まえるということを示しています。この点からも、王子公園の歴史を、私も踏まえるべきだと考えます。質問者の方が御指摘をされている王子公園を再整備して、原形をとどめない。この御懸念と御心配は、多くの市民の思いであると、私も考えます。来年度予算が先ほど決定されましたが、この中には、王子公園再整備基本方針では、一貫して存続とされていた国の重要文化財である旧ハンター邸まで、里帰りなどというこじつけにより移転されようとしています。大学誘致を優先する中で、看過できないと私も考えます。市長は、お配りされてるコメントでも、他都市以上に歴史的資源を大事にしていかなければならない、こう述べておられます。再整備に伴う重要文化財の移転はやめるべきだと私も考えます。

質問者から御指摘いただいた外観、景観を維持したまちづくりという視点は、非常に重要だと思います。現在の王子公園再整備基本方針が執行されれば、大学や立体駐車場により、六甲山系が一望できる景観が損なわれることは、神戸市当局も認めています。さらに、市外からの集客などにも結びつくよう、有効活用して、方策をさらに検討していく必要があると、提言書は述べていますが、質問者がお示しのように、王子公園のよさを生かして、観光などにも生かしていくべきだと考えます。つまり、大学誘致ではなくて、王子動物園を広くする。王子公園内にあるプールやテニスコート、サブグラウンドなどをリニューアルし、もっともっと魅力的なものにすれば、大学誘致以上の地域貢献、神戸市の持続的な発展にも寄与するものになると考えます。

以上でございます。

○理事（かじ幸夫）　　味口理事、ありがとうございました。

この件に関して、理事、委員の皆さんから補足等ございませんか。よろしいですか。

（なし）

○理事（かじ幸夫）　　では、次に参ります。

須磨区の横山様から、提言書の6ページ、デジタルアーカイブの開設に関連した御質問を頂きました。

インターネット上には、市内の歴史的資源を紹介するコンテンツが多くあるが、個々の取組にとどまっている。また、埋もれている歴史的資源も多くある。こうした資源を浮かび上がらせるため、スマホやタブレットなどデジタル機器での可視化や、電子地図上での時代区分、カテゴリーごとの表示、AIやDXを活用した、こうした情報へ誘導、蓄積するシステムが必要だと思うが、既に計画されているのかという御質問です。

この質問につきましては、吉田理事から回答させていただきます。よろしく申し上げます。

○理事（吉田謙治） 御質問に直接お答えいたしますと、計画をされているのかということですが、まだ提言の段階でございますので、当局のほうにおいて具体的な計画があるわけではありません。

こちらの提言でございますように、当然ながら神戸市のホームページの中には、いろんなところで過去の歴史遺産のような紹介があります。しかしながら、御指摘のように、それを一覧する——それぞれが例えばリンクされてるということがないので、目的に沿って整理しなきゃいけない——これは専門家の力を借りないといけませんけれども、まず、データベースのレイアウトをどうするかということから始まるわけでありまして、それを考えるときに、そのデータをお使いになる目的、これをどうするかということを確認にしませんとレイアウトも決まっていけないので——先ほどちょっと私、冒頭申し上げましたように、歴史的な建造物、あるいは土木構造物というのは神戸市内多いんですけれども、こういうものがあつたというだけではなくて、それはどうやって造られたのか、その背景にある技術や、あるいはデザインはどこから来たのかということまで含めて、少し掘り下げてデータベース化しなせんと、これから何かに使おうとするときに、使えないといいますか、その情報がないとあまり意味がない。そういう建物がありましたというだけでは、やっぱり十分なデータにはならないというのは考えております。そういったものも含めて少し掘り下げていきたいなと。

それから、なぜそれがあるのかと。例えば、この前に東遊園地がありますけれども、なぜ東遊園地という名前か——これは西遊園地も計画されとったからですけども——東遊園地と呼んでますけど、これ何のために造られたのか。今現在、工事してますけれども、実はああいうタイプの公園ではなかったんですね。旧と呼んでますけど、居留地にお住まいだった外国人の皆さんが、自分たちのコミュニティーの中で仲よくスポーツをやって楽しもうと、運動会をやってた場所でありまして、そういうことからすると、現在の東遊園地は、かなり目的、趣において変わっているということですが——それはいいかどうか、現代の私たちが、市民の皆さんが御判断いただければいいかと思えますけども——こういったことも含めてデータとして蓄積し、関係づけをしていくと。例えば、公園と引張れば、東遊園地の公園だけじゃなくて、そのほかの公園も出てくる。あるいは、その目的も出てくる。どうやって造ってるのか、何があるのかということも出てくる。こういったことを皆さんに楽しんでいただけるようにしたいなと思っております。

より専門的にできるかどうか分からないんですけども、今、私たちが非常に問題だと思っておりますのは——ちょっと本題から外れますけど——技術・技能の継承です。これはありとあらゆる分野で技術・機能の継承ができてないということがあって、それを残そうという努力もどうもしてない。神戸の場合は、先ほどの土木とか建築の技術もありますけれども、いろんな生産技術があります。鉄鋼、造船、言えば切りないんですけど、航空機もありますし、重機もありますし、輸送機もある。物流のノウハウもある。こういったものがどんどんAIとかDXの話あるんですけど、ブラックボックス化して行って、実際に人間がこれを使おうとするときに、これまで今、現代の私たちの社会を支えている技術・技能がどんどんなくなって行って、非常に空疎になってる

という問題がありますので、こういったものも含めて、まさにデジタルアーカイブですから、縦横無尽に御活用いただけるように専門家に御指導いただきながらつくっていききたい、あるいはつくってほしいということを要望させていただいております。

以上です。

○理事（かじ幸夫） 吉田理事、ありがとうございました。

この件に関して、理事、委員の皆さんからございませんか。いいですか。

（なし）

○理事（かじ幸夫） では、次に参ります。

西区の青木様から、提言書の7ページ、鉄道遺産（神戸市電）に関連した御意見を頂きました。

神戸市交通局の名谷車両基地内にある市電庫と和田岬や小寄公園に点在する神戸市電を、西神中央駅付近に集約し、公開することで、観光資源になる。歴史遺産として登録すれば、市民の誇りにもなる。個人所有の市電の部品等の提供も募り、市民と一緒に作り上げる、神戸市営鉄道保存館を検討してほしいという御意見です。

こちらについては、私のほうから御回答させていただきます。

冒頭、私の意見でも申し上げたように、市電というのは本当にその全盛期、いわゆる戦前戦後、本当に神戸のまちの発展に、もしくは戦後復興の本当に礎だったんだなというふうに僕は感じてるんですけど、本当に市民生活、日々の生活になくはならないものだったなというのは思っております。

提言書の中には、この神戸市電とか関連資料を市民の歴史的な遺産として、また、神戸の大切な観光資源と捉えて、そのそれぞれについて、行政が持っているものに加えて、市民の皆さんであったり、ファンの皆さんであったり——神戸市電のファンの皆さん、本当に強い愛を感じてますので——そういった皆さんからも情報を募って、まずはデジタルアーカイブとして集約して発信するべきということで提言書に盛り込みました。このデジタルアーカイブは、少し前の回答にもありましたように、これから立ち上げていくものでありますので、どういったところまでというのはこれからのことになるんですけども、まずはデジタル化をして、後世へ残していこうではないか。

一方で、御質問にありましたように、現存する市電の本体、市内は3か所に、おっしゃったように点在してます。例えば、その関係備品であったり、図書類というものも、なかなか倉庫の奥に眠っているような状況かなと私は感じています。大切に未来へ引き継ぐ、かつ、それを皆さんにもっと知っていただく場が必要かなというのは、当然、質問にあったとおりでというふうに思います。具体的に質問の中では、市電本体を西神中央へ——恐らく西神の今の地下鉄の車庫があるようなエリアかなと想像するんですが——そこへの集約であったり、神戸歴史遺産——これがもう立ち上がって今で2年目になりますか、これ間違ってたらすみません——そういうところへの登録とか。先ほど私から京都の事例を出しましたが、しっかりと何かの形で登録していくということ、これも大事かなと思いますし、神戸市営鉄道保存館——他都市を見ますと、市営交通全般、これはバスとかも含めた博物館があるというのは、ちょっと聞いたことがあります——こんな設立の御提案も頂きました。実際の実現にはなかなか課題が多いのかなというふうに思ってるんですけども、例えば、今、西神中央、交通局の車庫の取扱いについて、利活用が検討されてまして、その中では、ちょうど今年度、民間事業者からのサウンディング調査をもって市場調査を行っているようです。西神車庫のエリアをどうこれから利活用するのかということが、今、

話をされてるようです。その中に、結果次第、どういった提案があるかというのはありますけど、そういう提案の中に、もしこういう市会からの発信、こういう提言の内容なんかをそれぞれサウンディングする事業者が感じてくれば、何かその中に盛り込まれるという可能性としてあるのかなというふうに思っております。

いずれにしても、今回、提言書にこういうふうに記載して、デジタルアーカイブもありますが、もっともって神戸市民でこの市電というものを懐かしむだけではなくて、今の交通、未来の交通を考える基点として、市民の皆さんで盛り上げていただくとということが大事かなと思っておりますので、この提言を皮切りに、本当にもう1度、市民の皆さんと——子供たちとか見てほしいなと思うんですけども——そういうことを広めていきたい、盛り上げていきたいというふうに思っております。

私からの回答は以上とし、貴重な御意見ありがとうございました。

この件で、理事、委員の皆さんからいいですか。

(なし)

○理事（かじ幸夫） では、次に行きます。

東灘区の吉田様から、提言書全体に関わる御質問を頂きました。

こうした活動に際し、資金面はどう考えているのかを知りたい。賛同者が寄附金など簡単に提供できる制度を考えてほしい。こういう御質問、御意見でありました。

こちらについては、香川理事から回答させていただきます。よろしくお願ひします。

○理事（香川真二） 御指摘ありがとうございます。こうやって皆さんでいい提言をさせてもらったんですが、やはりそれを形にしないと意味がないわけですから、そのためには資金が要るということで、その点をどう考えてるかというふうに質問を頂いたと思っております。

我々、行政視察をさせてもらいまして、広島にも行かせてもらったんですけど、広島電鉄さんという地元の企業さんが、そういったバックアップをして、まちづくりを支援してるというふうなやり方も1つは資金の調達だとも思っておりますし、あとは、平野委員が言われたように、行政、市民、そして、企業、そういった三位一体で今、まちなか西国街道推進協議会というのをつくられて、そういったところでまちづくりをされてるというふうな形もあります。

さらに、篠山のほうで視察させてもらったんですが、古民家を宿泊施設、ホテルとして利用してる、そういった企業、NPOの企業が、そういった歴史遺産を使ってお金、資金をつくり出してるというふうなところもあります。

今、全国的に見ても、いろいろ歴史遺産を民間企業が活用しております。北野でしたら、スターボックスさんも異人館を使ってますし、最近ですと、福山城というのが城泊といって、福山のお城に1泊できるというふうな、そういったのもイベントとして始めてるみたいです。1泊100万円というふうな金額なんですけど、それでもかなりの方が泊まりたいという応募があるというふうなことを聞いておりますので、そういった形で資金の調達というのをしていくのも1つの方法かなと思っております。

賛同者の方が寄附金を簡単に提供できる制度というのを考えてほしいということなんですけど、神戸市のほうとしましては、1つ紹介させていただきたいのが、皆さんの手元にお配りしているこの資料なんですけど、神戸歴史遺産というのを次世代に残すための制度で、ふるさと納税を使った寄附制度をつくっております。

神戸歴史遺産というのは、もともとあった指定の文化財等——これ神戸市内、国や県、市が指

定してるのが600ぐらいあるんですが——それをもう少し緩やかにして、先ほど言われていましたような自然環境等も含めたりして、そういった歴史遺産を後世に残していこうということで指定しています。その中で、皆様にふるさと納税をしていただいて、そのお金を利用して——今年は3月31日までで、この5つが指定されたと。これは毎年変わるんですけど、どれか選択していただいて、どれに対して支援をしたいというふうなことで、ふるさと納税をしていただけるようになっています。建築物だけじゃなくて、この有馬芸妓文化みたいな、そういった文化の部分もしっかりとカバーしていこうとされておりまして。裏面見ていただくと分かるんですが、神戸市内の方、ふるさと納税していただいても返礼品がありませんので御注意ください。

このお金の使い方なんですけど、1万円ふるさと納税してもらおうと、約1,000円が手数料として引かれて、9,000円が神戸市のほうに納税されるような形で、それと同じ額を神戸市が出します。つまり、1万8,000円をそのふるさと納税の寄附金としてプールできるような状況になってまして、1年間で1,000万円ぐらいのお金が集まります。皆さんが指定してくれた文化財の、この文化財の修繕をしてほしいとなった場合には、修繕費の3分の2を行政が、国・県・市で出しますので、3分の1のお金に関して、皆さんから集めたふるさと納税を活用するというふうな仕組みになっておりますので、そういったぜひともふるさと納税を活用していただいて、まずは歴史遺産、こういったのを残していただきたいなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○理事（かじ幸夫） 香川理事、ありがとうございました。

この件に関して、理事、委員の皆さんから何かありますか。大丈夫ですか。

（なし）

○理事（かじ幸夫） では、以上で、事前に頂いた7つの質問に対する回答は以上になります。

ここから、新たな御質問、もしくは再質問をお受けしたいというふうに思っております。

少し注意点だけ申し上げます。たくさんの方の御質問をお受けしたいので、質問の場合はお一人1回と、そして、7つ質問に回答させていただきましたが、再質問の方も1回ということによってよろしく願いいたします。

この質問の内容については、本日、報告させていただいた提言書の内容に限らせていただきます。十分に御配慮いただければというふうに思っております。

それでは、こちらのほうで、私のほうで指名した上でマイクを運びますので、マイクが手元に来ましたら、お名前——名字だけで結構です——お名前とお住まいの区を御発言いただいて、質問等お願いしたいというふうに思っております。

今、前の時計で11時、もうすぐ20分になろうかと。11時半をお約束してありますので、半きっちりとは言いませんが、その辺の時間も、すみません、皆さん御配慮いただいて、進行に御協力ください。

大変お待たせいたしました。それでは、質問、もしくは再質問、ある方、挙手をお願いいたします。

じゃあ、私の手前のほうから順番に御指名いたします。

○質問者 灘区の赤松です。どうも会派を超えて熱心に議論いただいてありがとうございます。

提言にもありましたように、大河、朝ドラをうまく活用したまちづくり、ぜひとも御支援をお願いしたいと思います。神戸市当局はPRが下手なんです。朝ドラになった異人館、ポートピア

81、それ以来ヒットがない。先ほどどなたか委員さんが言われましたように、幸い、朝ドラで牧野富太郎さん出ます。このままほっとくと、高知と東京で終わります。ぜひともここで盛り上げて、会下山、宣伝しないといけないと思います。御支援をお願いしたいと思います。

最終的には、歴史、国とか、あるいは世界遺産、これを目指していけるようにならんといかんなど思っております。そのためには、神戸市だけじゃなくて兵庫県、それから、他府県、他市町と連携していくことが大事やと思います。北前船の日本遺産、あれって26市町連携して取ってます、順番に。これについては、兵庫県では神戸市はじめ4市町が連携して、北前船できました。先ほど出ました西国街道、これについても、神戸市だけやなしに姫路も一生懸命してます。それから、広島とか九州まで一生懸命してるんで、そこら辺の他市町と連携していけるようお願いしたいなと思います。

それから、これは答えていただかなくても結構です。王子公園の再整備についても、各会派いろいろな意見あると思いますけど、ここで議論された——特別委員会で議論、各会派超えて一生懸命議論されたんで、そのような形でお願いしたい。

以上でございます。

○理事（かじ幸夫） 赤松様、ありがとうございます。

では、新しい質問と捉えますので、山本委員長のほうから回答をよろしくお願いいたします。

○委員長（山本のりかず） 赤松様、新たな御質問ありがとうございます。

まず1点目、大河ドラマ、朝ドラ、もっと活用して、神戸をアピールしたらどうかという御提案なんですけど、まさにそのとおりだと思います。菅野委員からも御紹介ありましたとおり、牧野富太郎さん、朝ドラ、4月から開催されるということで、朝ドラ開催されるということは、全国の国民の皆さん見ます。そしたら、神戸市民だけではなくて、全国の都道府県の方が神戸に来てみようかということになると、神戸の経済も活性化するのかなと思ってます。そこで、また新たな出会いであったりとか、刺激であったりとか、地元の商店街の皆さんが——来ていただくことによって地域が活性化したりするということがありますので、おっしゃられてるとおり、この契機を逃さずしっかりと神戸市、行政当局としても、我々議員としても、もっともっと周知徹底していき、朝ドラ、先ほどおっしゃった大河ドラマを活用した取組をしていきたいなと思います。

次に2点目です。2点目も私も非常に同感なんですけども、他府県、世界遺産、神戸市には有形無形文化財が多数ございます。先ほど御紹介ありました北前船、26市町が連携して取り組むと、まさにおっしゃるとおりです。

今回、西国街道、我々委員会として広島を視察したときに、実際、広島市の協議会から、神戸も一緒になって、要は西国街道普及だけじゃなくて、一緒に連携してやりませんかというお話がございました。そういった中で、行政と行政が提携することも非常に大切だと思うんですけど、やはり民間、市民の皆さんと民間の皆さん、もしくは学生の皆さん、一緒になって連携していくことも非常に大切なのかなと思ってます。行政はあくまで——皆さんが主役ですから、後押しできるような支援策を模索していくのが行政の本来の形かなと思ってますんで、まずは、先ほど御提言ありましたように、他都市、神戸市だけじゃなくて県との連携、もしくは国との連携、さらに飛躍して申し上げれば、世界との連携も夢ではないかもしれませんが、世界との連携も——神戸の歴史を振り返ると、開港150周年の歴史もこれまで通ってますので、世界との連携も非常に大切——世界の都市と連携していくのも選択肢の1つかなと思いますんで、赤松様から御提案いただいた内容、しっかりと1点目、2点目、我々委員会として受け止めましたんで、思いは同

じですので、しっかりと対応していきたいなと思います。3点目は、要望ということで、御意見ということで回答は控えさせていただきたいと思います。

以上です。

○理事（かじ幸夫） 委員長、ありがとうございました。

先ほど挙手いただいた方で、女性の方、よろしく願いいたします。

○質問者 灘区の坂口と申します。質疑の中でありました、王子公園についての追加質問になります。

質問で挙げさせていただいたのは、外観、景観という点で指摘させていただいたんですけども、実は王子公園のこの施設の中には、本当に歴史的な大切な施設がたくさんあります。例えば、登山研修所というのは、近代登山が発祥の地ということで、日本に2か所しかない研修所です。神戸と富山にしかないそうで、全国の避難救助される方が、ここで研修を受けて使われるそうです。なのに、王子公園再整備という名目で、本当に貴重な資産を壊していいのかどうか。

同じように、相撲場、こちらも昔からあるというのが——資料で調べましたら、関学が王子公園にあったときにもう既にあった施設なんです。公式の試合ができる相撲場です。

同じように、テニスコートも、関西唯一のハードコート。プロのテニスプレーヤーがこちらに来て使われるコートです。また、スタジアムやプールも、国体のときに造られたもので、それぞれ本当にその当時の最善のものが注がれている、貴重な歴史的な、本当、神戸のスポーツの歴史を示している施設を再整備という名で全て取り壊してしまうことについて、先ほど意見を伺った共産党以外の方から御意見を伺いたいと思います。

○理事（かじ幸夫） 御質問ありがとうございます。

再質問と捉えたので味口理事かなと思ったんですが、質問者の方からの思いもありますので、ここは委員長か副委員長か、お二人のほうから御回答ありますか。

副委員長、よろしく願いします。

○副委員長（しらくに高太郎） 委員会として申し上げれることにつきましては、この本日の提言「歴史的資源を活かしたまちづくり」ということで提言をさせていただいているんですけども、この歴史的建築物の活用という点については、ここにも記載させていただいておるんですけども、神戸独自の歴史的建築物を大切に次の時代に引き継いでいくとともに、市外からの集客などにも結びつくよう有効活用していく方策をさらに検討していく必要があるというふうに私たちの提言では述べさせていただいておりますので、今後、行政に対しましては——この提言の中で申し上げれることについては、集客などに結びつくよう有効活用していく方策を検討していくようにということを、行政に対しては、この委員会から申し上げられることではないかというふうに考えます。

以上でございます。

○理事（かじ幸夫） 委員長、よろしいですか。

よろしく願いいたします。

○委員長（山本のりかず） 補足させていただくと、非常に御意見、先ほど御紹介——本来、当該委員会とちょっと離れるかもしれませんが、神戸市内には、先ほどおっしゃったように日本に登山研修——私も登山好きなんですけども、日本に、富山と神戸に2か所あると。テニスコートもハードコートがあるということで、神戸市内には多くのスポーツ施設がございます。ある意味、過去の先人たちが使用してきたとか、いろんな大会が行われてきたという経緯も踏まえると、神

戸の歴史的な資産かなと思っています。そういった中で、こういった先ほどおっしゃった議論も、議会、各委員会でこれまで議論してきた経緯もございますので、しっかりとおっしゃってる内容——先ほども申し上げましたけど——我々議員、委員のメンバー、理事の皆さん、受け止めたんで、今後のどうしていくか——神戸の未来に対する非常に大切な御意見、御質疑だと思いますんで——今後の推移を見守っていただきたいなと思います。

以上です。

○理事（かじ幸夫） 委員長、ありがとうございます。

私が最初どうですかと聞いたとき、もう1人、手が挙がってたかと思ひまして、ちょっとすみません、お時間のこともあるので、こちらの最後、男性の方の質問、大変恐縮なんですけど、最後までさせていただきたいというふうに思います。御理解ください。

では、よろしく願いいたします。

○質問者 北区に住んでおります、松尾と申します。よろしく願いいたします。

今回、お話を聞かせていただいて、神戸にはこれだけの歴史的資源だったり、史跡があるというのが、私も知らなかったんですけども、実際、多くの市民の方も知らないと思います。これらを、提言書のほうにも書いてありましたけれども、外に発信するということはもちろんですけども、市民にももっと知ってもらおうということが必要だと思っております、とりわけ、これからの若い世代の方に、これらの歴史的資源を知ってもらおうような試みだったり工夫がほかにありましたら、ぜひお聞かせ願いたいと思います。

以上です。

○理事（かじ幸夫） ありがとうございます。未来を担う若い世代から質問を頂きました。

こちらにも新しい質問と捉えて、委員長、副委員長のほうで何かございましたら回答いただければと思いますが。

委員長から、よろしく願いいたします。

○委員長（山本のりかず） 松尾さんも非常に若い方かなと思います。非常にその若い方々に知っていただく、そして、興味を持っていただくということは、非常に大切な視点だと思います。我々、先人が築いてきた、先ほど申しましたいろいろな歴史的な建築物であったりとか——先ほど松尾さんも改めて知ったということもおっしゃってました。こういった中で、次世代に、どうやって若い人たちに興味を持っていただき、その場所をもっともっといろんな方に御紹介したり、知っていただくことも非常に大切な視点であります。

今、世の中いろんなブームがあります。例えば、歴史好きな女の子は歴女であったりとか、登山好きな女の子は——いろんなそういう分野で若い方、女性の方々が興味を持っていってます。そこでどうやって、先ほど松尾様おっしゃるように、若い人たちに知っていただくということは、非常に我々委員会としても課題なのかなと思っております。

その中で、今日、御紹介したように、例えば、ユーチューブ、DX、そして、SNS。いろんな昔と違って発信する方法は多様に増えてます。ツイッター、インスタグラム、LINE、いろんな媒体がございますので、若い人たちが接しやすい、そういったDX、ITを使って周知していくとともに、例えば、我々議員もそうですし、神戸市も、若い人たちと、学生の皆さんと、議論する場も、集まる場所もございますので、そういった中で大学生の皆さん、そして、20代、30代の方々に伝えていくという場も、これからどんどん設けていく必要があると思いますんで、松尾様おっしゃってる、じゃあ具体的にどうするのかというのは、これからの神戸の課題だと思います。

ますので、しっかりと、今日、御提言いただいたことに関して、我々も、ITも使って、SNSも使って、実際こういった形で顔と顔が触れる機会も通して、知っていただきたいなと思います。

○理事（かじ幸夫） 委員長、ありがとうございます。

今日、市民報告会として約1時間半、皆さんと時間を共有しました。提言書の内容、思いも伝わったかなと思いますし、皆様からの質問を通じて、補強できたのかなというふうにも感じてます。本来であれば全ての皆さんから御意見いただきながら、内容というのをもっと濃くしていくべきところではあるんですけども、冒頭言いました時間の都合がありますので、どうか御容赦いただけたらなというふうに思ってますが、開かれた議会を、私たち議員は自負しておりますので、いついかなるときでも結構です、何かこの提言に関する事で、もう少しということであればお声がけをいただいたり、また、市会事務局を通じて御意見を出していただければなと思いますので、そういった部分もお含みおきいただいて、お持ち帰りいただけたらなというふうに思っております。

じゃあ、これで質疑応答のほうは終わらせていただきまして、時間が11時35分です。最後に、しらくに副委員長のほうから、閉会の御挨拶を申し上げます。

副委員長、どうぞよろしく願いいたします。

○副委員長（しらくに高太郎） 皆様、本日は私たちのこの特別委員会の提言に御関心をいただきまして、そしてまた、大変お忙しい中、この神戸市会まで足をお運びいただきましたことにつきまして、本当に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

このたびは歴史ということにつきまして、1つテーマを絞っていこうということで、今日も御意見ありましたけれども、私もこの神戸から、実はもう出たことがない神戸人なんですけども、市内にこのような歴史的資源がたくさんあるんだということを、実は恥ずかしながら初めて知ったこともたくさんございました。しっかりとこの資源を、この神戸のまちづくりに、いわば足元をしっかりと見詰めて、そして、神戸市民の皆さんが自分たちのまちをよく守って、そしてまた、海外から、そしてまた、市外からもたくさんの方々がこの神戸を訪れていただけるように、これからもこの議会として提言をしまいたいというふうに思いますが、皆さんも御承知のとおり、4月が改選ということになっております。引き続き、今日、1年間、15人のメンバーが共有いたしました思いをしっかりと生かしていくことができるように一丸となって頑張りたいと、皆さんの今日のお声を頂きました思いをしっかりと、今日は15人、受け止めたので、それを生かすことができるように頑張りたいと思いますので、引き続き、市民の皆さんに御指導、そしてまた、御意見たくさん頂ければありがたいというふうに思っております。

簡単でございますけれども、閉会の御挨拶に代えさせていただきます。本日は皆さん、誠にありがとうございました。（拍手）

○理事（かじ幸夫） 副委員長、ありがとうございました。

これもちまして、未来都市創造に関する特別委員会市民報告会を終了させていただきます。

会の進行に本当に御協力いただきましてありがとうございました。心から御礼申し上げます。

なお、机の上にアンケートを置かせていただいております。こういった中にも皆さんの声を聞かせていただけたらと思いますので、お時間許す限り御記入いただいた上で、最後、お帰りの際、出口で担当の者が待っていますので、そこでお渡しください。

改めて、本日は御参加いただきましてありがとうございました。今日はちょっと足元も緩いので、どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。（拍手）

(午前11時38分閉会)